

立川市民科について

1 これまでの取組 (H27.4～)

○立川市民科の目的

義務教育9年間を見通した教育の中で、郷土学習とキャリア教育を関連付け、郷土「立川」の優れた文化や伝統、産業やまちづくり等を理解し、児童・生徒の郷土や、まちを愛する心情や態度を養い、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する市民として育成する。

☆立川市民科の目指す児童像

- まちを知り、まちに愛着をもち、まちのよさを受け継ぐ児童・生徒
- まちと主体的に関わり、まちづくりに貢献する児童・生徒

☆育みたい「立川市民力」

- まちを愛し、人を思いやる心
- コミュニケーション力・協働力
- 課題解決力・社会参画力
- キャリアを見つめる力
- 情報活用力・メディアリテラシー

○これまでの児童・生徒の変容

平成31年度全国学力・学習状況調査意識調査結果
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」

◎肯定的回答の割合

- ・・・平成25年度と比較して
- 小学校 + 9.9
- 中学校 + 10.4

●否定的回答の割合

- ・・・平成25年度と比較して
- 小学校 - 9.5
- 中学校 - 10.4

2 現状の成果と課題

○成果

- ・児童・生徒の意識に明らかな変容が見られている。
- ・各学校において、工夫された指導が展開されている。
H31の取組例) 六小「羽衣ホタルプロジェクト」
五中「郷土 砂川を学ぶ」
一小「アド街ック立川」
- ・中学校区を中心として、義務教育9年間を見通した指導を展開し、地域の活性化にも結び付いている。

○課題

- ・学校間で取り組み内容に差がみられる。

3 今後の方向性

○令和3年度の立川市民科の充実に向けた取組

1 立川市民科 教科化へ向けた検討

- (1) 教育課程特例校申請へ向けた準備
- (2) カリキュラム等検討委員会の設置

※委員構成・・・学識経験者、東京都教育委員会関係者、小学校長会、中学校長会

- ① 実施時数の検討
- ② 指導内容の検討
- ③ 指導目標及び評価方法の検討 など

2 立川市民科公開講座の実施

- ・参加者は、保護者を含めた地域の方々とする。
- ・学校公開時に各学校において立川市民科の学習を広く公開する。
- ・参加者は、当該校の児童・生徒とともに、立川市民科の内容を共に学習する。
- ・授業中の振り返りの話し合い等は、児童・生徒と参加者がグループワーク等で行う。

4 今後のスケジュール

令和3年												令和4年				
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	以降
議会及び定例教育委員会に方向性について報告			カリキュラム構築検討委員会による協議			議会及び定例教育委員会に協議結果等について報告			各学校での教育課程の準備及び保護者への周知					教科「立川市民科」開始		